

「道徳的諸価値についての理解」

を重点とした道徳科の授業づくり

第3学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名「次世代のいない手として」（内容項目：D-19 生命の尊さ）
- 2 教材名「命と向き合う」（出典「中学道徳3 きみがいちばんひかるとき」光村図書）
- 3 主題設定の理由

「生命の尊さ」については、小学校では生命のかけがえのなさを学び、有限性や連続性について考えてきた。中学校では自分自身の存在の不思議さ（偶然性）、社会的関係性や自然界における他の生命の関係性などの側面から、生命の尊さについて多面的・多角的に考えることを重ねてきている。それらを踏まえ、義務教育の最終段階において、「自分の命をいかに生きるか」を改めて考え、「生きる」ことへの希望と覚悟をもたせたい。そのことが他の命と共存しながら、人生を力強く生きる礎となるようにしたい。

この時期の生徒は、中学校卒業間近の進路決定に際し、それぞれの思いをもって過ごしている。人生の目標をもち、未来に向けて希望に胸を膨らませている生徒もいれば、漠然と受動的に進路選択をした生徒、受験に失敗しそうだと悲観している生徒、進学を他人事のように考えている生徒、成績や進路先などで人の優劣を判断している生徒もいる。だからこそ、決して否定できない「命の大切さ」という価値に向き合わせたい。

本教材は、三つの問いで構成されている。一つ目の問いでは、これまでの道徳の学習を振り返り、命について考える。二つ目の問いでは、命の偶然性、連続性、有限性を踏まえて話し合う。三つ目の問いでは、生きるために他の命を奪うことや次の世代に命をつなぐことを意識した上で、自分の命を思い切り生きることについて考えていく。

4 本時のねらい

「命とは何か」「なぜ命が大切なのか」について改めて考え、「命を与えられた自分という存在」についての実感と「自分の命をどう生きていくか」という責任を意識させることで、人としての在り方を謙虚に捉える心情や、自他を大切に、命あるものすべてを慈しむ道徳的心情を育てる。

5 本授業のポイント

- ① 教材やクラスでの話し合いを通して、生命尊重にはさまざまな側面があることを捉えようとしているか。
- ② これまでの自分の考えを振り返りながら、かけがえのない自他の命を大切にすることについて、考えを深めようとしているか。

6 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される生徒の発言	留意点や評価の観点 等
導 入	1 前回の授業を振り返る ○ 「今、あなたは自分らしく精一杯生きていますか。」 ・部活動で目標を持って取り組んできた。 ・級友と協力し、学校祭の成功に向けて取り組んでいる。 ・受験に向けて、目標を立てて勉強している。	・生命の偶然性、連続性、有限性に触れる。 ・個人発表（全員指名） ・学級の実態に合わせ、事前アンケートを実施し、全体に提示する。
展 開	2 教科書158頁を範読する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 自分はどんなバトンを受け取り、どんなバトンを渡したいか、考えよう。 </div> ○ 病魔に襲われ、身体も心も苦しいのに、なぜ毎日のように岩谷時子先生へボイスレターでメッセージを送り続けたのでしょうか。【人間理解】 【他者理解】 ・先生を励ましたい。 ・病気に負けたくない。 ○ 「命ある時間を思い切り生きた本田美奈子さん」はどんなことを大切にしてください。また周りの人や社会にどんなバトンを渡してください。 ・自分にできることを考えながら、感謝することを大切にしてください。【価値理解】 ○ あなたは、どんなバトンを受け取り、どんなバトンを渡したいですか。 3 今日の授業で考えたこと、思いついたこと、そしてこれからの生き方について、書いてみよう。 ・私も周りの人に希望や勇気を与えられるようになりたい。 ・身の回りの人に親切にできるようになりたい。	ICTの活用 ・PPT（パワーポイントを使用、動画視聴） ・交流方法を工夫し、自己理解から他者理解を図る。 ・意見交流（ペア→全体→フリー） ・なぜ、命ある時間を思い切り生きた人と考えるのか理由をしっかりと考えさせる。 ・ペアで意見交流 ◇ 「バトン」をつなぐことの大切さや難しさについて考え、深めることができたか。 ・ペアで意見交流 ・全体で共有
終 末	4 自分自身の考えをまとめ、発表する。 ○ 今日の授業内容を振り返り、自己の気付きについて考え、表現する。 ・一人一人の命が大切なものだと考えること	・今までの自分の「生き方」に対する考え方を振り返り、未来に向けてどんな行動を取るべきか考え、表現させたい。 ・個人発表